

平成26年度

事業報告書

自 平成26年 1月 1日

至 平成26年12月31日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

I 事業の概要

平成26年の日本経済は、4月の消費税引き上げ後も緩やかな回復を維持していたが、その後の急激な円安の進行や原油価格の下落の影響から、景気回復の展開が不透明となりつつある。一方、競馬界においては相互発売の拡充をはじめ、施設改善やPR施策の効果などにより、中央競馬および地方競馬ともに引き続き前年を上回る発売実績を達成した。

当研究所においては、このような競馬産業の回復基調の中、効率的な業務運営と積極的な事業展開に努め、検査および研究事業を確実に遂行した。また、飼料などの薬物検査とスピード遺伝子検査は、予想を上回る実績を残した。

検査事業においては、競走馬、飼料、騎手などの薬物検査、軽種馬のDNA型検査、その他の附帯的な検査を実施した。特に、薬物検査部門では、4月から対象薬物を追加（禁止薬物は86薬物から122薬物、規制薬物は21薬物から28薬物）した検査を開始した。また、国際的なアナボリックステロイド（AS）の使用禁止に対応し、中央競馬トレーニングセンターへの新入厩馬、および北海道トレーニングセール上場馬を対象とするAS検査を開始した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された新たな薬物検査法の開発、対象薬物の範囲拡大に向けた調査・研究、薬物の使用実態に関する調査・研究および競走馬の重篤疾患に関する遺伝学的調査・研究の4テーマについて、薬物規制の国際化への対応と競走馬の事故防止に立脚した研究を実施した。また、これら研究成果の一部は学会や雑誌に発表するとともに、講師の派遣や技術研修生の受け入れによる学術交流を図った。なお、薬物検査法の開発に関する研究は、28年に禁止薬物指定が予定されている8薬物を含めた事前検査を27年4月から開始するため、その内容を一部変更した。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎検査、妊娠馬のステロイドホルモン検査、エクイノム・スピード遺伝子検査の他、治療薬物の血中濃度の測定を受託した。

Ⅱ 業務関係

1 競走馬の薬物検査に関する事業

1) 競走馬薬物検査（競馬主催者）

検査件数 (レース分)	43,357 件	}	中央競馬	10,366 件
禁止薬物陽性件数 (レース分)	4 件		地方競馬	32,991 件

競走馬薬物検査内訳

中央競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
札幌	507	中山	1,186	阪神	1,444
函館	434	東京	1,649	小倉	720
福島	865	中京	864	レース分計	10,366
新潟	1,008	京都	1,689	その他※1	23
				計	10,389

※1 レースに出走しなかった馬

地方競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
帯広	3,372	大井	3,412	姫路	0
門別	2,164	川崎	1,891	高知	2,680
盛岡	1,395	金沢	2,133	佐賀	2,415
水沢	1,573	笠松	1,959	レース分計	32,991
浦和	1,582	名古屋	2,607	その他※2	89
船橋	1,570	園田	4,238	計	33,080

※2 能力検査の馬(帯広8件)およびレースに出走しなかった馬(盛岡16件、名古屋32件、高知33件)

2) その他の競走馬薬物検査（調教師）

検査件数 12 件

3) 飼料等の薬物検査

検査件数 912 件

禁止薬物陽性件数 7 件

区 分		カテゴリーA	カテゴリーB	オプション (イプラトロピウム)	アナボリック ステロイドのみ	計
内 訳	日本中央競馬会	67	13	67	2	149
	地方競馬主催者	1	0	1	0	2
	飼料業者など	464	63	234	0	761
計		532	76	302	2	912

4) アナボリックステロイド等の検査

検査件数 4,428 件

陽性件数 1 件

区 分		競技外	国際交流 競走	育成馬	トレーニング セール上場馬	計
内 訳	日本中央競馬会	4,131	12	77	0	4,220
	特別区競馬組合	0	7	0	0	7
	北海道軽種馬振興公社	0	0	2	0	2
	日高軽種馬農業協同組合	0	0	0	199	199
計		4,131	19	79	199	4,428

5) 騎手の薬物検査（日本中央競馬会）

検査件数 32 件

6) 規制薬物の理化学検査

検査件数	2,650 件	}	中央競馬	1,930 件
			地方競馬	720 件

陽性件数 5 件

7) 競走馬の薬物検査（公益社団法人日本馬術連盟）

検査件数 40 件

8) 薬物検査法審議委員会の開催

次のとおり、薬物検査法審議委員会を開催した。

第 49 回薬物検査法審議委員会 平成 26 年 3 月 13 日

（審議事項）

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

その他

「血液を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」

「アナボリックステロイドの検査法及び判定基準」の設定について

（報告事項）

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

禁止薬物

「尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準」

「塩基性薬物及び中・酸性薬物の検査法及び判定基準」

ニコチンの確認検査法の一部改正について

9) ISO（国際標準化機構）規格適合認定の継続維持

試験所および校正機関の能力に関する国際規格である ISO/IEC 17025 : 2005 に適合した薬物検査体制を維持するため、マネジメントシステムを厳格に管理し、確実な薬物検査業務の実施に努めた。

10) 公認競馬化学者協会（AORC）主催の技能試験への参加

競走馬の薬物検査における検査能力の検証を目的とし、平成 26 年 6 月、AORC が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に参加したところ、正答率 100%の成績を収めた。

11) 競馬分析化学者および競馬獣医師の国際会議 (ICRAV) への出席

平成 26 年 9 月 20 日から 27 日まで、役職員 3 名がモーリシャス共和国ポートルイス市で開催された第 20 回 ICRAV に参加した。ICRAV 総会および AORC 総会などの会議に出席し、海外における薬物規制の動向や最新の検査技術などに関する情報収集と意見交換、研究成果のポスター発表を実施した。また、職員 1 名は会議終了から 2 日間開催されたペプチド分析ワークショップに参加した。

12) アジア競馬会議 (ARC) への出席

平成 26 年 5 月 5 日から 8 日まで、職員 2 名が中華人民共和国香港特別行政区で開催された第 35 回 ARC 総会に参加した。公正競馬のための薬物規制制度や遺伝子ドーピングの現状などに関し、情報収集と意見交換を実施した。

13) 海外の競走馬薬物検査機関の調査

平成 27 年度から開始される薬物検査体制の国際標準化事業の事前調査を目的とし、平成 26 年 12 月 6 日から 13 日まで、職員 2 名をフランスの検査機関 LCH (Laboratoire des Courses Hippiques) に派遣した。現地では、分析機器の導入および活用状況を視察するとともに、検査方法などに関する情報を収集した。

2 馬の DNA 型検査などに関する事業

1) 軽種馬の DNA 型検査 (公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

(1) 馬の親子判定および個体識別に係る検査

検査件数 7,073 件

親子判定否定件数 1 件

区 分		検査件数
内 訳	子 馬	6,787
	母 馬	0
	種 雄 馬	32
	個体識別	254
合 計		7,073

(2) 繁殖雌馬データベース構築のための検査

検査件数 132 件

(3) 芦毛の遺伝子検査

検査件数 704 件

2) 馬の新生児黄疸症予防のための血液検査 (公益社団法人日本軽種馬協会)

検査件数 69 件

3) 重種馬などの DNA 型検査 (公益社団法人日本馬事協会)

検査件数 15 件

4) 輸血のための血液型および血清中の抗体検査 (日高軽種馬農業協同組合 他)

検査件数 13 件

5) 馬尿への人尿混入鑑別検査 (愛知県競馬組合、岩手県競馬組合)

検査件数 3 件

6) 国際動物遺伝学会 (ISAG) 主催のホースコンパリソンテストへの参加

DNA 型検査機関における国際標準の検査能力を検証するため、ISAG が隔年に実施するホースコンパリソンテスト 2013-2014 に参加し、正答率 100%の成績を収めた。

7) 国際動物遺伝学会議への出席

平成 26 年 7 月 27 日から 8 月 1 日まで、職員 2 名が中華人民共和国西安市で開催された第 34 回国際動物遺伝学会議に参加した。馬の親子判定および DNA 研究に関連するワークショップに参加し、海外における親子判定検査の動向や最新の DNA 研究などに関する情報収集と意見交換、研究成果の発表 (口頭およびポスター) を実施した。

3 研究に関する事業

1) 日本中央競馬会からの委託研究

(1) 薬物検査法の開発に関する研究

ア 液体クロマトグラフィー/質量分析法を応用した血液を検査材料とする検査法の開発

新規検査対象薬物の追加が容易であり、かつ効率的なスクリーニング検査法の確立を目的とし、平成24年度から3年計画で、液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法(LC/HRMS法)を応用した検査法を検討している。25年度までに、尿を検査材料とする塩基性薬物および中・酸性薬物の検査法(MU-7)を適応できる薬物群に対し、LC/HRMS法によるスクリーニング検査法を確立した。

最終年度となる26年度は、血液を検査材料とする塩基性薬物および酸性薬物の検査法(MP-1)を適応できる薬物群に対し、液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法(LC/MS/MS法)によるスクリーニング検査法および確認検査法を検討した。その結果、スクリーニング検査においては、対象の74検出物質に対してLC/MS/MS法による検査法を確立した。また、確認検査においては、74検出物質のうち69検出物質に対してLC/MS/MS法、5検出物質に対してガスクロマトグラフィー/タンデム質量分析法による検査法を確立した。(平成24年度から3年計画)

イ 血液を検査材料とする赤血球造血刺激因子の検査法の開発

本研究は国際的に不正使用が問題となっている赤血球造血刺激因子に対し、平成26年度から2年計画で、スクリーニング検査法および確認検査法を確立することを目的とした。本年度は、代表的な赤血球造血刺激因子であるエリスロポエチンおよびダルベポエチンに対し、確認検査法における酵素加水分解の条件を検討した。

年度途中における研究テーマの優先順位の変更により、本研究は一時中断し、5月からは「ウ 鎮静催眠・精神安定作用を有する薬物の検査法の開発」を実施した。

(平成26年1月から4月まで)

ウ 鎮静催眠・精神安定作用を有する薬物の検査法の開発

鎮静催眠・精神安定作用を有する薬物については、平成22年にキシラジンなど4薬物に対する検査法を確立している。

本研究では、その他の鎮静催眠・精神安定作用を有する薬物において、すでに確立しているスクリーニング検査法を適用できる薬物を検索して確認検査法を検討し、検査対象薬物の拡大を図った。その結果、新たにメドミジンなどの3薬物を追加した検査法を設定できた。

(平成26年5月より単年度計画)

(2) 検査対象薬物の範囲拡大に関する調査・研究

本研究は検査対象薬物の範囲の拡大を目的とし、平成25年から3年計画で現行の禁止薬物と同様の薬効を有し、かつ海外において陽性が報告されている薬物に対し、現行検査法の適用の可能性を検討している。

本年度は、血液を検査材料とするテストステロン検査法（MP-2）のスクリーニング検査法を適用できるアナボリックステロイド（AS）に対し、確認検査法を検討した。その結果、新たにダナゾールなどの20種類のASに対する確認検査法を設定できた。
（平成25年度より3年計画）

(3) 競走馬における薬物の使用実態に関する調査・研究

本研究は新たに規制対象とする薬物の選定、治療薬の適正使用の徹底を目的とする。すなわち、競技後および競技外に採取された検査材料、および重篤疾患を発症した競走馬から採取された検査材料を用い、現行の検査対象薬物を含めた広範囲の薬物の使用実態を調査する。

本年度は、ガスクロマトグラフィー/質量分析法とLC/HRMS法を組み合わせたブロードスクリーニング法を構築して使用実態を調査した。その結果、薬物規制および適正な治療薬の使用に関する有用な情報が得られた。

（平成26年度より3年計画）

(4) 競走中および調教中に発症した重篤な疾患の遺伝学的調査・研究

本研究は日本中央競馬会に在籍する競走馬を対象とし、統計遺伝学的手法によって競走中および調教中に発症した重篤な疾患における遺伝要因の関与を調査するとともに、分子生物学的手法によって関連する遺伝領域を特定する。

本年度は、競走馬情報管理システム（JARIS）データから、骨折発症例に関する情報を抽出し、線形モデルおよび非線形モデルにより、統計遺伝学的に遺伝率を推定した。その結果、腕節部および飛節部における骨折発症に対する遺伝要因の関与が明らかになった。また、次年度以降は疾患の関連する遺伝領域の特定を予定しており、提供された骨折例を含めた現役競走馬の血液サンプルを保存処理した。

（平成26年度より3年計画）

2) 研究成果の発表など

- (1) 26年9月3日、競走馬理化学研究所大会議室において、平成25年度に日本中央競馬会から委託された研究の成果発表会を開催した。
- (2) 次表のとおり、委託研究などの成果は、ICRAV、ISAG、日本薬学会、日本分子生物学会などにおいて発表した。また、国内雑誌2誌に論文などを公表した。

表 題	報告学会など
Analysis of procaterol in equine urine and plasma by LC-MS/MS	第20回 ICRAV
血漿プロテオミクスを指向したアルブミン除去前処理法の開発 (1)	日本薬学会第134年会
血漿プロテオミクスを指向したアルブミン除去前処理法の検討 (2)	第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム
オールアウト走がサラブレッド種の白血球系細胞における遺伝子発現に及ぼす影響	第56回競走馬に関する調査研究発表会
Whole-genome resequencing of Japanese native horses for SNP and INDEL discovery	第34回 ISAG
SNP および INDEL 探索を目的とした日本在来馬の全ゲノム・リシーケンス	第15回動物遺伝育種学会
LCORL 遺伝子多型がサラブレッドの体型に及ぼす影響	第15回動物遺伝育種学会
Gene expression profiling of white blood cell activated by all-out exercise in Thoroughbred horses	第37回日本分子生物学会

表 題	報 告 誌
第2章 育種・繁殖・アニマルテクノロジー 2 育種資源 2 ウマ	最新 畜産ハンドブック 2014, 19-22
日本在来馬について 6. 在来馬の遺伝的背景	畜産技術 715, 2014, 27-30

3) 学術交流など

次表のとおり、職員を派遣した講義や学生を受入れての技術研修を実施した。

区 分	年 月 日	依 頼 元	内 容	員数 (名)
講 師 派 遣	平成 26 年 2 月 1 日 4 月 12 日 7 月 19 日 11 月 29 日	昭和大学大学院 医学研究科	生体の機能解析法 遺伝医学の基礎	1
	2 月 28 日 ～3 月 1 日	京都大学大学院 農学研究科	動物遺伝育種学研究室 セミナー	1
	4 月 12 日	日高軽種馬 農業協同組合	馬生産地における アナボリックステロイド検査	1
	4 月 13 日 ～15 日 11 月 6 日 ～7 日	岐阜大学 応用生物学部 共同獣医学科	総合臨床実習	1
	7 月 8 日	昭和大学薬理連合	薬理連合セミナー ウマ科学の最新研究	1
	9 月 29 日	地方競馬全国協会 公正部	平成 26 年度地方競馬薬物規制 に関する情報連絡会議	1
	12 月 18 日	日本中央競馬会 馬事部	美浦トレーニングセンター 開業獣医師研修	1
技 術 研 修 受 入	9 月 8 日 ～11 日	岡山大学大学院 生命科学研究科	ウマの遺伝学的分析技術に関 する研究	1
		京都大学大学院 文学研究科	ウマの気質に関する遺伝学的 研究	1

4 一般化学分析事業

1) 馬伝染性子宮炎検査 (日高家畜衛生防疫推進協議会 他)

検査件数 1,992 件

区分	事業名など	検査件数
内	馬伝染性子宮炎侵入防止対策事業	1,067
	馬伝染性子宮炎蔓延防止対策事業	328
訳	その他(上記の2対策事業の対象外)	597
計		1,992

2) 妊娠馬のステロイドホルモン検査

検査件数 674 件

3) エクイノム・スピード遺伝子検査

検査件数 435 件

4) 木曾馬種の保存事業における木曾馬などの遺伝子分析 (木曾町)

分析件数 32 件

5) 馬血漿中の薬物濃度分析

(1) アルファキサロン (美浦トレーニングセンター)

分析件数 90 件

(2) アルファキサロン、ブトルファノールおよびメデトミジン (競走馬総合研究所)

分析件数 52 件

(3) スルピリド (日高育成牧場)

分析件数 38 件

6) 広報活動

次表のとおり、馬主、厩舎関係者、馬生産関係者などに対し、エクイノム・スピード遺伝子検査の説明およびパンフレットの配布など、検査の受託に向けた広報活動を職員を派遣して実施した。

年 月 日	場 所	イベント
平成26年		
3月27日	浦和競馬場	日本地方競馬馬主振興協会総会
4月12日	エクリップスホテル(新ひだか町)	日高軽種馬農業協同組合講演会
4月29日	中山競馬場	JRAブリーズアップセール
5月13日	函館競馬場	北海道トレーニングセール
7月14日～15日	ノーザンホースパーク	セレクトセール

Ⅲ 総務関係

1 理事会

理事会を次のとおり開催した。

第1回理事会 平成26年2月20日

(決議事項)

- 第1号 平成25年度事業報告及び決算について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員候補者の選定について
- 第3号 平成26年度第1回評議員会の招集について
- 第4号 薬物検査法審議委員会委員の委嘱候補者について
- 第5号 公益財団法人競走馬理化学研究所会計規程の一部改正について
- 第6号 会計事務細則の一部改正について
- 第7号 公益財団法人競走馬理化学研究所確定拠出年金の基本的事項に関する規程の一部改正について
- 第8号 公益財団法人競走馬理化学研究所退職共済金規程の一部改正について
- 第9号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程の一部改正について

第2回理事会 平成26年3月22日 (みなし決議)

(決議事項)

- 第1号 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所競走馬薬物検査受託規程の一部改正について
- 第3号 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について
- 第4号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程第4条の3に規定する退職手当の支給について

(報告事項)

- 第49回薬物検査法審議委員会の審議結果

第3回理事会 平成26年6月11日

(決議事項)

- 第1号 役員の報酬について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について
- 第3号 公益財団法人競走馬理化学研究所確定拠出年金の基本的事項に関する規程の一部改正について
- 第4号 薬物検査法審議委員会運営規則の一部改正について
- 第5号 DNA検査法検討委員会運営規則の一部改正について
- 第6号 弔慰規程の一部改正について

(報告事項)

- 理事の職務の執行状況

第4回理事会 平成26年8月28日 (みなし決議)

(決議事項)

- 第1号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員候補者の選定について
- 第2号 評議員会の決議の省略について (平成26年度第2回評議員会)

第5回理事会 平成26年9月18日 (みなし決議)

(決議事項)

- 第1号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員候補者の選定について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所監事候補者の選定について
- 第3号 評議員会の決議の省略について (平成26年度第3回評議員会)
- 第4号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について
- 第5号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について
- 第6号 職員給与規程実施基準の一部改正について

第6回理事会 平成26年11月18日

(決議事項)

- 第1号 平成27年度事業計画及び収支予算について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員会運営規則の一部改正について
- 第3号 平成26年度第4回評議員会の招集について
- 第4号 公益財団法人競走馬理化学研究所理事会運営規則の一部改正について
- 第5号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について
- 第6号 職員給与規程実施基準の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

2 評議員会

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 平成26年3月7日

(決議事項)

- 第1号 平成25年度事業報告及び決算について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員の選任について

第2回評議員会 平成26年9月2日 (みなし決議)

(決議事項)

公益財団法人競走馬理化学研究所評議員の選任について

第3回評議員会 平成26年9月25日 (みなし決議)

(決議事項)

- 第1号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員の選任について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所監事の選任について

第4回評議員会 平成26年12月4日

(決議事項)

第1号 平成27年度事業計画及び収支予算について

第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所評議員会運営規則の一部改正について

3 人事異動

1) 役員

平成26年 9月 30日 監 事 (非常勤) 武部 俊一 辞任

平成26年 10月 1日 監 事 (") 佐藤 信博 就任(新)

2) 職員 採用 1名 退職 2名
事務援助の終了 1名

3) 嘱託 採用 1名 退職 0名

役職員などの状況

区 分		1月1日現在 (名)	12月31日現在 (名)
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
職員	総務部	6 <1>	5 <0>
	事業部	20	19
	遺伝子分析室	5	5
	管理調整室	3	3
	小 計	34 <1>	32 <0>
嘱 託		0	1
合 計		40 (3) <1>	39 (3) <0>

※ () : 非常勤の人数で、内数である。

< > : 日本中央競馬会からの事務援助者の人数で、内数である。

4) 評議員

平成26年 3月 7日 益満 宏行 辞任
井上 真 (日本中央競馬会 理事) 就任(新)
8月 10日 酒井 俊夫 辞任
9月 8日 宮本 恭一 (地方競馬全国協会 理事) 就任(新)
9月 11日 後藤 正幸 辞任
10月 1日 小林善一郎 (日本中央競馬会 常務理事) 就任(新)

4 事業の紹介

次表のとおり、施設見学や取材の受け入れなどにより、当研究所の事業を広く紹介した。特に、競馬関係者に対しては、禁止薬物陽性馬の発生防止を目的とする啓発活動を実施した。

年 月 日	見学者など	内 容	員数(名)
平成 26 年			
1 月 20 日	農林水産省 生産局畜産部競馬監督課職員 他	所内見学	6
1 月 30 日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	8
2 月 20 日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	8
2 月 21 日	東北大学 薬学部・薬学研究科病態分子薬学分野 教員・学生	所内見学	5
2 月 26 日	日高軽種馬農業協同組合 組合長 他	〃	3
4 月 7 日	公益社団法人日本装蹄協会 装蹄教育センター 装蹄師認定講習会講習生	〃	18
4 月 17 日	地方競馬全国協会 新規採用職員	所内見学・講習	5
4 月 25 日	日本中央競馬会 副理事長 他	所内見学	3
5 月 1 日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	8
6 月 18 日	日本中央競馬会 他 新規採用獣医職員	所内見学・講習	6
9 月 10 日	地方競馬全国協会 副理事長 他	所内見学	3
9 月 18 日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	8
10 月 20 日	農林水産省 生産局畜産部競馬監督課職員 他	〃	8
11 月 6 日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	8
11 月 13 日	東京大学 大学院農学生命科学研究科教授 (薬物検査法審議委員会委員)	〃	1
11 月 18 日	日本中央競馬会 馬事担当理事	〃	1
11 月 20 日	地方競馬全国協会 地方競馬教養センター 調教講習生・調教課程生	所内見学・講習	14
12 月 16 日	公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 情報システム部職員	所内見学	2

取材年月日 (※：寄稿)	掲載誌または番組名	内 容	発行日または放送日
平成 26 年			
1 月 21 日	BSフジ ガリレオX	日本の在来馬	2 月 23 日
3 月 18 日※	サラBLOOD! 2	スピード遺伝子	3 月 29 日
3 月 31 日	スポーツニッポン新聞	〃	4 月 16 日
4 月 1 日	ラジオ日経 「地球は競馬でまわってる」	薬物検査 スピード遺伝子	4 月 11 日 18 日
5 月 1 日	競馬ブック	スピード遺伝子	5 月 26 日
5 月 26 日	大阪スポーツ新聞 他	〃	5 月 28 日
9 月 30 日※	サラBLOOD! 3	〃	10 月 3 日
12 月 16 日	日刊スポーツ新聞	馬の毛色	未定

5 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はないため、省略した。